

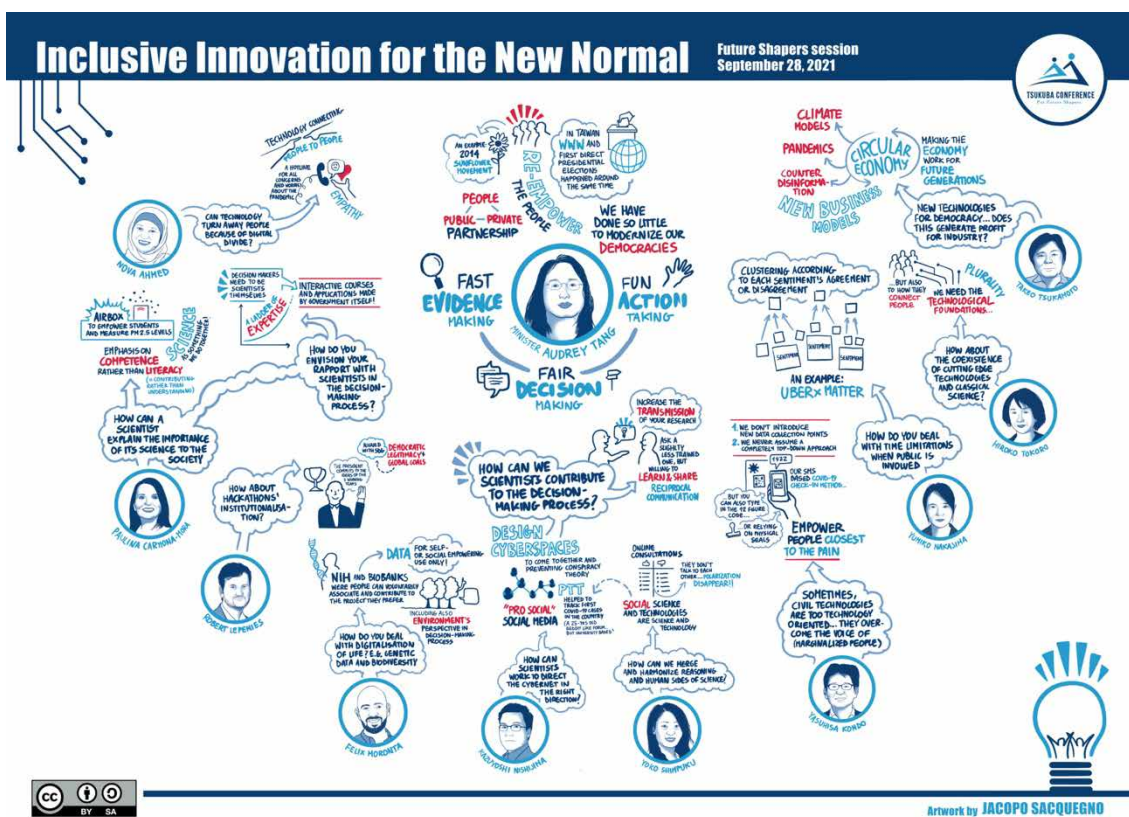
## 開催報告 【筑波会議】

筑波会議 2021 の企画委員として、日本学術会議若手アカデミーから西嶋一欽（国際分科会前副委員長、京都大学）、新福洋子（国際分科会前委員長/前副代表、広島大学）が参画しました。会議は 2021 年 9 月 21 日～30 日に開催され、プレナリーセッションとして、Global Young Academy (GYA) との共同企画、Future Shapers Session 「若手研究者が展望する “Inclusive Innovation for the New Normal”」を開催しました。

前半は台湾のデジタル大臣である Audrey Tang 氏を招待し、西嶋、新福がモデレータとなり、国内外の若手科学者・官僚 8 名と共に「自分たちが科学技術の未来を Future Shapers としてどうしていきたいか」を議論しました。

議論の様子はタン大臣の公式サイトおよび YouTube にて公開されています。<sup>\*1</sup>

また、筑波会議としてグラフィックレコードに残されました。



(筑波会議報告書より)



後半は若手科学者らがそれぞれの担当したセッションで、どのような議論があったかを報告し、他の参加者と更なる議論を展開しました。印象的であったのは、タン大臣がデジタル技術を最も技術から遠ざかっている人々に届けなければ意味がないとする姿勢と、科学者が直接一般の人々とやり取りすることが出来なくても、身近な科学に親和性の高い人から一般の人々に共有することで、その輪を広げていくべきだとしていたことです。このセッションにおける議論から、「筑波宣言 2021」の Article 4 “We are committed to reciprocal communication on science with our neighbors, and thereby joining in social innovation.”が生まれました。

また、ノーベル賞受賞者との対話セッションでは、梶田隆章氏、天野浩氏、Kostya Novoselov 氏の 3 名と若手科学者との小グループによる対話が行われ、科学技術政策や科学者としてのキャリアや人生といった幅広いトピックで話が進みました。新福が総合司会を行い、GYA から 3 名のモデレータ、Anindita Bhadra 前 GYA 共同代表と共にトピックや議論をまとめました。

その他にも近藤康久（若手アカデミー、総合地球環境学研究所）がコンカレントセッション「オープンサイエンスと在来知をめぐる倫理的諸問題」を主宰し、若手アカデミーからは寺田佐恵子（東京大学）と新福が参加しました。

国際的に若手科学者が科学技術の未来を担う“Future Shapers”として議論を行う機会となり、多数の若手科学者からこうした機会を提供したことへの感謝が寄せられました。

\*1: <https://www.youtube.com/watch?v=fiYEhfTtPhI>

リンク先の以下の項目から閲覧できます。

2021-09-21 Opening Remarks for Tsukuba Conference

2021-09-28 Talks at Tsukuba Conference The Future Shapers Session

（報告者：新福洋子・日本学術会議若手アカデミー／広島大学）